

埼玉育ちのグローバル人



アメリカ南部で日本の種をまく

第3回「日本ってどこ？を日本に行きたい！に変える仕事」

JOI (Japan Outreach Initiative) プログラム 日米草の根交流コーディネーター

村田 彩さん



埼玉県マスコット「コバトン」

皆さん、こんにちは。最終回は、2016年夏より2年間に渡り派遣されているアメリカ・アーカンソー州における日米草の根交流コーディネーターとしての活動について紹介させていただきます。

アメリカ・アーカンソー州(Arkansas)

まず初めに、私が現在住んでいるアメリカ南部のアーカンソー州についてご紹介したいと思います。ご存知の方はあまり多くはないと思いますが、意外と日本人に馴染みのある州でもあるのです。

第42代アメリカ合衆国大統領のビル・クリントン氏は同州出身で、州都のリトルロックにある空港の正式名称は「Bill and Hillary Clinton National Airport」と呼ばれています。



州都のリトルロック

全米一の米の産地でもあり、アメリカで生産される米の約50%がアーカンソー州でつくられているというのは驚きです(主にインディカ米)。

また、アーカンソー州はダイヤモンドが自然に埋蔵されている事が発見された合衆国内で唯一の州であり、州西部のダイヤモンド・クレーター州立公園ではなんと自分でダイヤモンドを発掘した

からお持ち帰り可能という嬉しいサービスもあります。



アーカンソー州の愛称は「自然の州」

一方、アーカンソー州はアメリカ公民権運動において歴史的に重要な地であり、1957年の人種差別騒動「リトルロック高校事件」では、各地で白人と黒人が同じ学校に通う融合教育化が進められる中、州政府や合衆国軍を巻き込む大騒動となりました。騒動があったリトルロック・セントラル高校には現在も多くの学生が通い、高校のすぐ向かいのビジターセンターでは当時の出来事について学ぶことができます。



リトルロック・セントラル高校

日米草の根交流ーアメリカで日本を伝えるー

私は2016年の夏から2018年夏まで2年間の任期でアーカンソー州コンウェーにあるヘンドリックス大学を拠点にし、JOI(Japan Outreach Initiative)プログラム 日米草の根交流コーディネーターとして活動しています。

独立行政法人国際交流基金日米センターと米国非営利団体ローラシアン協会が共同実施するこのプログラムは、日本人コーディネーターがアメリカにて草の根レベルで日米交流を深めることを目的としています。

私の主な仕事内容は、大学にて日本語指導のサポートや日本語ハウスのディレクターとして日本に興味のあるアメリカ人学生と共に生活し、アクティビティを通し日本文化や言語を教えることです。また、公立学校や図書館、シニアセンターなどを毎日訪問し、子どもから大人まで幅広い年代の人々に日本文化を紹介しています。具体的には、日本の学校や生活の紹介、伝統文化や季節ごとのイベント、そして簡単な日本語の挨拶などアメリカの人々に楽しみながら日本について学んでもらえるようなアクティビティを行っています。

地域のイベントにも積極的に参加しており、アートイベントでは折り紙を紹介し、地域のインターナショナルフェスティバルでは大学生と共にソーラン節のダンスを披露しました。

さらに、大学生や教授、地域の方々向けの様々な日本関連イベントも企画実施しています。1月の書初めイベント、巻き寿司講習、茶道体験、さらには、俳句とハイキング(“Haiku-Hike”)というユニークなイベントも開催し、毎回多くの方に参加して頂きました。



1月に開催した書初めイベント

約1年間の活動を終え、アーカンソー州の8000人を超えるの方々にお会いし日本文化を紹介することが出来ました。この中には、すでに日本を訪れたことがあり日本が大好きな方もいれば、日本についてほとんど知らないという方も多くいらっしゃいます。しかし、アクティビティやイベント後に少しでも日本について理解が深まり、興味を持ってくれる方が増えることを願い毎日の活動に取り組んできました。

喜ばしいことに、昨年からの訪問を続けている小学校では、私を学校で見かけるたびに全校生徒が元気よく「Konnichiwa!」と挨拶してくれたり、シニアセンターでは、おじいちゃんやおばあちゃんがお礼の手紙をくれたり、数えきれないほどの素敵な経験がありました。

英語で上手く説明が出来なかったり、予想していなかった質問に上手く答えられなかったり、簡単なことばかりではありませんでしたが、これまでの一人ひとりとの出会いは私にとってかけがえのないものであり、困難や苦勞を乗り越え活動を続ける大きな原動力となっています。



小学校訪問の様子



剣道ワークショップ

日本ってどこ？を日本に行きたい！に変える仕事

JOI プログラムでの活動は、私が子どもの頃から憧れていた海外で働く機会を与えてくれただけではなく、今まで学んできた国際交流での経験を最大限に活かし成長できる貴重な機会だと思っています。アメリカの子どもたちに毎日会い、親御さんや先生方と接する中で、日本紹介を通し国際理解教育の一端を担うことができることに大変やりがいを感じています。

また、アメリカの大学生が日本への留学や就職を目指すサポートをする中で、彼らが将来、日米交流リーダーとなることを陰ながら支えることができるのも喜ばしいことです。来年の夏までの任期を終えた後、日本でその学生達と再会することが今からとても楽しみです。

私が JOI プログラムに応募した最大の理由は、多くの人々に日本という一つの国を知ることきっかけに自国以外の国にも目を向け、国際交流の楽しさを知ってもらうことです。

アメリカの子どもたちが私という初めての「外国人」と出会い、楽しい時間を過ごしてもらうことで、将来他の国々や文化について学ぶことに興味を持ち、様々な人種や宗教を尊敬できる人に成長する手助けができればと思います。

「日本のことをアーカンソー州で広める」という大きな目標のもと活動を開始しましたが、すべてこの地域の人々の親密なネットワーク、そして多大なご支援があってこそ実現可能となるのだと思います。

人と人の関係を築くのは時間のかかる作業です。しかし、小さな活動の積み重ねや一人でも多くの地域の方々と知り合うことで、次第に私も日本からの「ただの訪問者」ではなく、「このコミュニティの一員」として活動が出来ているのだと思います。いつも私の活動を支えてくれる日本人コミュニティの方々や関係者の方々には大変感謝しています。

残り約 8 か月となりましたが、少しでも多くの方々に出会い、この活動を今後も持続的に行えるよう輪を広げていきたいと思っています。そして、

帰国後は、私がアメリカで学んだ多くのことを日本で紹介し、引き続き「日米の懸け橋」となれるような存在になりたいと思っています。最後までお読みいただき、ありがとうございました。



図書館での手作りうちわのアクティビティ